平成２９年度地域づくり人材養成講座　第３回ワークショップ開催概要

日　　時	平成２９年6月１８日（日）　１３：００～１５：３０
場　　所	尾崎中央ふれあい会館
指導・助言者	東海学院大学人間関係学部心理学科　客員教授　宮本邦雄 先生
受講者	２９名
共　　催	岐阜県環境生活部県民生活課 各務原市産業活力部いきいき楽習課
内　　容	今回は、先進的な活動をされている２団体の方のお話をお聞きしました。 １　かかみがはら暮らし委員会 **ご発表者：かかみがはら暮らし委員会　代表理事　長縄尚史　様** ＜同委員会の概要＞ ・「各務原の暮らしやすさ、人の温かさ。たくさんの“ステキな魅力”を多くの人に知ってもらいたい」という想いのもと平成２８年年８月に発足。 ・メンバーの職種は、美容師やグラフィックデザイナーなど様々な職種だが、全員が各務原市在住。 ・各務原市の学びの森で開催される「マーケット日和」、各務野自然遺産の森で開催した自然体験塾特別講座「ほしぞら日和」や「鶏の解体とジビエに学ぶ」など人気イベントを企画・運営。 ・平成２８年１１月には学びの森に「かかみがはらスタンド」というカフェを開設。軽食の提供だけでなく、様々なイベントも開催。 ・かかみがはらスタンドでは、各務原市近郊でこだわりを持ってモノづくりをされている生産者の方と作り上げたサンドイッチが6月１６日から販売開始。新聞にも紹介された。 ＜発表内容＞ ◎「やることをゴールにせず、伝える・伝わる・広がる、そして続けていくこと」 ・イベントや活動をやることをゴールにしてはいけない。 →後日写真や動画で様子を紹介するなど参加できなかった人に対するケアが大切。 →「次回は参加してみたいな」と思う人が多くなる。 ・インターネットやフェイスブックの普及により情報が溢れている。 →「伝える」ことだけ頑張るだけではいけない。　←頑張る人は多い。 →みんなに「伝わる」ということが大切。 ・みんなに伝われば、自分たちが思っている以上の広がりやアクションが起こる。 →続けていくことが１番大切。 ・より多くの人の意見を取り入れると、みんなに受け入れやすい内容になるが、情報として残らなくなってしまう。 →まねをするのではなく、自分たちのやりたいこと・どこか新しいことをやるとよい。 ・どれだけよいことであっても１人でやっていては広がりに限界がある。 →みんなでつながることが大切。つながりができると、広がりの幅が広がる。

２　兵庫県明石舞子団地

ご発表者：兵庫県県土整備部住宅建築局住宅政策課住宅政策班　清水智子　様
兵庫県住宅供給公社住宅企画部明舞団地再生課　　神吉竜一　様

＜同団地の概要＞
・兵庫県神戸市と明石市にある、昭和３９年から入居が始まった兵庫県内でも最も古い団地の１つ。
・県営住宅、ＵＲ賃貸住宅、分譲集合住宅、戸建住宅からなる広さ１９７ha の団地。
・もっとも入居者の多かった昭和５０年頃と比較すると、世帯数はほぼ横ばいだが、人口については大幅な減少傾向にあり、高齢化率も４１．６％と兵庫県平均２７．１％（共に平成２７年数値）を大きく上回っている。
・平成１６年３月に「明舞団地再生計画」を策定し、地域住民・行政・公社・大学・ＮＰＯなど様々な主体が協力し、団地再生に取り組んでいる。

＜同団地の主な取組み＞
・リーディングプロジェクト：センター地区を３区域に分け、それぞれのコンセプトに合わせたハード整備を実施中。
・交流・情報交換の場としてまちづくり広場（現：明舞まちづくり交流拠点）を開設。
・平成１５年度・１６年度のモデル事業としてＮＰＯ活動の誘致。高齢者向け配食サービスや定食サービスを実施するＮＰＯは現在も活動中。
・様々な主体が委員となり団地の再生・活性化について考えるまちづくり委員会を開催。
・「団地内に学生がいる環境」を作るため、まちなかラボを開設。団地を住民と学生の交流の場、大学の実践的な調査研究の場とするための拠点となっている。
・自治会活動等への貢献などを条件に県営住宅を学生に提供。団地活性化及び団地内若年化を図っている。
・芸術文化等の知識をもつ住民が講師となる住民講座を開始。

＜取組みを通じて＞
・広報活動をすることは大切。各媒体のそれぞれのよさがある。
　→新聞に掲載されると地域住民にヤル気が生まれる。
　→フェイスブックは気軽に情報発信できる（ほぼ毎日更新中）。
・平成２６年度に「まちびらき５０周年」を迎えた。
　→記念事業を６３件開催、そのうち公共団体主催事業は５事業、あとは住民主催。
　→住民が主体的に動く雰囲気になってきた。
　→まちづくりは「やってもらう」から「自分たちでやるもの」という住民意識の変化があった。

＜今後＞
・「明舞団地再生計画」策定から１０年以上経った今でも、明舞団地再生計画の改定、住み替えシステム構築支援、エリアマネジメント立ち上げ支援など常に新しい取組みをしている。
・相談する相手がいない高齢者が増えているため、みんなが集まれる場所が団地内に点在するようになるとよい。

○宮本先生コメント
・１人１人が集まれる場所が確保されているところがよい
・活動を積極的に、いろんな媒体で発信しているところがすばらしい